

平成28年度
群馬県図書館協会会報

No. 11 (平29.3.31)

平成28年度の群馬県図書館協会の活動を御報告いたします。

1 第1回代議員会報告	····· P1
2 第14回群馬県図書館大会報告	····· P2~4
4 研修報告	
(1) 図書館(室)職員初級研修	····· P5
(2) 図書館(室)職員実務研修	····· P6~7
(3) 図書館(室)職員専門研修	····· P8~9
5 各加盟団体活動報告	
(1) 群馬県公共図書館協議会	····· P10~12
(2) 群馬県大学図書館協議会	····· P13
(3) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会	····· P14
(4) 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会	·· P15~16

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）
加盟団体 { 群馬県公共図書館協議会
 群馬県大学図書館協議会
 群馬県高等学校教育研究会図書館部会
 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会
 群馬県立図書館 }

第1回代議員会報告

平成28年4月27日（水）、県立図書館3階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第1回代議員会が開催されました。

はじめに、中山会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

議題

1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成27年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成27年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成27年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成28年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成28年度群馬県図書館協会予算（案）について

2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成27年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成27年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成27年度会計監査報告について
- (4) 平成28年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成28年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

3 監事の指名について

富岡市立図書館 吉田 久美恵 氏

4 第14回群馬県図書館大会の開催について

事務局から提出され承認されました。

第14回 群馬県図書館大会報告

未来につなげる図書館 一飛躍・変革のとき一

日 時：平成28年11月24日（木）10時～16時30分

場 所：群馬県立図書館（式典、記念講演、第1分科会）

前橋商工会議所（第2分科会）

日 程：

1 式典（10：00～10：30）（県立図書館ホール）

（1）主催者挨拶 群馬県図書館協会長

中山 勝文（群馬県立図書館長）

（2）来賓祝辞 群馬県教育委員会教育長（代理）

佐藤 喜治（群馬県教育次長）

（3）後援・加盟団体紹介〔略〕

（4）表彰式

①優良図書館群馬県教育委員会表彰 富岡市立図書館

②群馬県読み聞かせボランティア顕彰

・粕川小学校 さくらんぼの会（前橋市）

・館林市立第六小学校読み聞かせボランティア よみうさぎ（館林市）

・乗附公民館図書ボランティア（高崎市）

・ユウカリの会（邑楽町）（欠）

③優良読書グループ表彰伝達 高崎市立中央図書館 高崎読書会（高崎市）

④全国公共図書館協議会表彰 橋本 文雄（元・千代田町立山屋記念図書館長）（欠）



2 記念講演（10：30～12：00）（県立図書館ホール 参加者105名）

「生き残る図書館、消える図書館」

猪谷 千香 氏（ハフィントンポスト日本版記者）

《概要》

全国各地の公共図書館の活動や問題点等をまとめた名著『つながる図書館』（筑摩書房 2014）の著者である猪谷千香氏を迎えて、記念講演を行った。氏は、元IOC（国際オリンピック委員会）副会長で旧富士見村名誉村民である猪谷千春氏を父に持つことから、群馬にもゆかりがあり、著作『つながる図書館』と大会テーマ「未来につなげる図書館」とが重なることから、今回の記念講演を依頼した。

講演の中で猪谷氏は、以下の図書館を事例として取り上げた。

①（東京都）武蔵野プレイス

…市民活動支援、生涯学習支援、青少年活動支援も行う複合施設。

②（富山県）富山市立図書館

…ガラス美術館と富山第一銀行が入っている。

③（神奈川県）海老名市立中央図書館

…カルチャーコンビニエンスクラブ（CCC）が運営。集客施設化。

④（青森県）つがる市立図書館

…イオンモールが図書館を誘致。商業施設と図書館のコラボレーション。

⑤（佐賀県）伊万里市民図書館

…市民の要望活動から建設。市民の憩いの場、人がつながる場所。

⑥（富山県）舟橋村図書館

…駅舎と一体で住民1人あたりの貸出数日本一。カモシカの来る図書館。

⑦（岡山県）瀬戸内市民図書館

…自治体直営。市民とワークショップを重ね設計に反映。

⑧（島根県）海士町中央図書館

…「人材育成は図書館で」住民とアイターンの人のコミュニティの場。

⑨（岩手県）紫波町図書館

…広場を中心とした4棟の複合施設「オガールプラザ」。公民連携の好例。

⑩（神奈川県）神奈川県立図書館

…廃止の危機も民間有志や企業、地元新聞の運動で継続。

⑪（神奈川県）鎌倉市立図書館

…ツイートで話題。日常からいろいろな人を味方につけるのが大切。

猪谷千香氏による記念講演は、全国津々浦々の図書館をつぶさに見て回った経験に裏打ちされた素晴らしい内容であった。CCCや指定管理者制度のような意見の賛否の分かれるテーマについては、どちらかに肩入れするのではなく、中立的な立場で、双方の見解をきちんと紹介しているのがよかったです。写真も多数提示したが、サイズが大きいうえ、見てほしいポイントをレーザーポインタで指示したため、とても効果的であった。参加者のアンケートでは「図書館の置かれた状況がよく理解できた」「図書館のあり方を考える良い機会になった」等、満足いただけたことが分かる。



3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

（1）第1分科会（県立図書館ホール 参加者32名）

アクティブ・ラーニングを知り、そして考える

共愛学園前橋国際大学副学長の後藤さゆり氏から「アクティブ・ラーニングで変わる図書館の役割」と題し、アクティブ・ラーニングとは何か、従来の調べ学習との違いや大学図書館での取り組みを講演いただいた。その後、県教育委員会高校教育課でアクティブ・ラーニングを推進されている毒島章指導主事から「群馬県高校生ステップアップサポート事業について」の取組説明を、およびアクティブ・ラーニングの実践校である県立館林女子高等学校の赤井恵美子教諭から「探究的学習における学校図書館の活用」の事例報告をいただいた。その後、アクティブ・ラーニングの展開に図書館がどのような役割を果たしていくのか、またどのような課題があるのかをグループに分かれて話し合い、各種図書館が協働して支援を行うための効果的な方策についても考えた。



参加者からは、「いろいろな気づきを話してもらい大変参考になった」、「実際に図書館を活用した先生の意見はとても参考になった」、「グループの話し合いについても、それぞれの立場からの話が聞けてよかったです」等の意見が寄せられ、大変有意義な分科会であった。

（2）第2分科会（前橋商工会議所アイビー 参加者37名）

図書館の魅力と可能性を伝える —図書館員のためのPR実践講座—

『図書館員のためのPR実践講座 味方づくり戦略入門』(樹村房 2014)の著者である仁上幸治氏を迎え、図書館の持つ魅力と可能性を発信するためのPRの知識と技術を学んだ。まず、仁上氏に「図書館のためのPR実践講座」と題し、図書館の魅力や可能性について一人でも多くの人に知っていただくための戦略について講演いただいた。次に「改善案を提案する」をテーマにワークショップを行った。発表ではバラエティに富んだプロジェクトが提案され、仁上氏から「今日の研修をきっかけに改善プロジェクトの実施を」と助言いただいた。



参加者からは、「各班の発表を行ったことにより、具体的にイメージできる部分もあったため、業務に活かしていきたい」「具体的で度肝を抜くアイデアと意見を学ぶことができました」「様々な事例を聞いてさらに今まで考えた事のなかったような視点からの切り口を知る事ができました」等の意見が寄せられ、大変好評な分科会であった。

初級研修「はじめの一歩」

平成 28 年度に図書館に異動、採用となった職員（正規・非正規を問わず）を対象に行う研修で、図書館の基礎的な事項、用語の説明、心構え、利用者対応等のプログラムを行った。

学校図書館から公共図書館の幅広い図書館員を対象としているため、多くの参加が得られた。県協会事業の中では参加者が多も多く、満足度も高いものとなっている。

参加者は 60 名

実施日：平成 28 年 4 月 28 日（木）

参加者の声を紹介する

- ・図書館は「人」だということを改めて感じました。
- ・非常に興味深く、また為になる講義ばかりでした。
- ・研修に参加させていただきましたが、様々な講師の方から貴重なお話を聞くことができて良かったです。なかなか普段の勤務では知りえないことが多く、改めて新鮮な気持ちで聞かせていただきました。
- ・グループ討議、情報交換で、他の図書館の方と交流ができる良かつたと思います。人と人のつながりは大切だと思います。

今後の研修希望については 2, 3 年の経験職員の研修や具体的な実情に関しての研修などの希望が寄せられている。

第1回図書館（室）職員実務研修

日 時：平成28年9月29日（木） 10時20分～15時00分

場 所：群馬県立図書館 3階 ホール

参加者：101名（①講義78名、②講義48名）※参加者は実人数

講 義：①講義「精神的に不安定な利用者に対する対応について」

大館 実穂 氏（群馬県こころの健康センター）

②講義「ビブリオバトルを楽しもう～発表から開催まで～」

瀬部 貴行 氏（紀伊国屋書店新宿南店 ビブリオバトル推進チーム
ビブリオバトル普及委員会関東地区代表）

《概要》

①講義「精神的に不安定な利用者に対する対応について」

講師：大館 実穂（群馬県こころの健康センター）

精神的に不安定な利用者が増加している現状を踏まえて実施をしたところ、定員を大きく上回る方が参加した。具体的にどのような対応をしていけばよいのかということについて具体例を交えて医師の立場から分かりやすく講義していただいた。

《参加者の意見等》

「日々の悩みや不安が解消された」、「本研修の第2弾を希望する」といった前向きな意見が多かった。



《概要》

②講義「ビブリオバトルを楽しもう～発表から開催まで～」

講師：瀬部 貴行 氏（紀伊国屋書店新宿南店）

ビブリオバトル推進チームビブリオバトル普及委員会関東地区代表）

近年話題になっているビブリオバトルを本研修で初めて取り上げた。実際にビブリオバトルを体験することに加え、主催者として必要な知識、準備等についても講義していただいた。

《参加者の意見等》

「初めてビブリオバトルを体験できてよかったです」「主催する立場として必要な知識等を学ぶことができた」といった意見が多くみられ、好評であった。



第2回図書館（室）職員実務研修

日 時：平成28年12月16日（金） 13時20分～16時15分

場 所：群馬県立図書館 3階 ホール

参加者：108名（③講義100名、④講義76名）※参加者は実人数

講 義：③講義「レファレンスについて」

関口 裕子 氏（群馬県立図書館 調査相談係）

④講義「県立図書館情報提供システム説明会」

青木 淳 氏（群馬県立図書館 資料情報係）

《概要》

③講義「レファレンスについて」

講師：関口 裕子（群馬県立図書館 調査相談係）

「レファレンスサービスとは何か」といった基本的なことから、実際にレファレンスを行うときの重要なポイント、レファレンスの参考となる資料等の紹介も交えて講義していただいた。

《参加者の意見等》

「レファレンスはこわいものであると思っていたが、調べ方を知りたいと分かり安心した」、「さらに経験を積んで勉強していきたい」といった前向きな意見が多くかった。



《概要》

④講義「県立図書館情報提供システム説明会」

講師：青木 淳 氏（群馬県立図書館 資料情報係）

29年1月の本館情報提供システム更新に伴い、実際に更新後の画面を見ながら、旧システムとの違いや新たな機能等を中心に説明をした。

《参加者の意見等》

「旧システムとそれほど変更はない」と分かり安心した」といった声が多くみられた。



大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修報告

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成28年度第1回

テーマ：「災害に学ぶ～図書館と災害・防災」

日 時：平成28年9月6日（火）13時20分～16時00分

場 所：高崎経済大学図書館 ホール

参加者：41名（大学図書館33名、公立図書館4名、高校図書館4名）

講 演：「災害から資料を守り、救うために」

日本図書館協会 資料保存委員長 真野 節雄 氏

ワークショップ：「もし明日、地震が来たら」

草津町立温泉図書館 中沢 孝之 氏

研究会概要

◇講演

災害大国の日本であるが、近年ますます多発し、どこでも災害から逃れることができない状況である。それぞれの図書館において大切な資料が被災しないために、被災したときに、どうすればよいのだろう。また、被災のなかでも特に恐いのが「水損」である。洪水、地震による配管破損などに限らず、雨漏りなどで被害に会うことは日常的に起こる。カビの危険のほか、アート紙やコート紙は固着してしまう。どうすればよいか。都立図書館で作成した「資料防災マニュアル」や東日本大震災で津波被災した資料の修復などを通じて感じたことなども含めてお伝えしたい。

◇ワークショップ

図書館で地震が起きたら、まずどうする？利用者の安全を確保するには？館内の避難経路は頭に入っていますか？災害が起きたときに慌てないために。ワークショップ形式で検討する。



（会場・高崎経済大学）



（真野講師）



（中沢講師）

参加者の意見等

東日本大震災やその後の自然災害で被害を受けた資料の救済・修復に第一線で関わってきた経験に基づく真野氏の講演は、具体的で分かりやすく、各図書館でどのような備えが必要か考えるきっかけとなった。また、中沢氏によるワークショップは限られた時間内で活発に意見交換が行われた。以下のような感想が寄せられ、有意義な研究会となった。

- 図書館の災害・防災の想定を考えるよい機会だった。マニュアルの作成に着手しなければならないと感じた。
- 群馬は災害の少ないところと安心しきっていたが、危機管理について改めて考えさせられました。ふだんから、利用者が資料を雨や飲みものでぬらすことがあるので、水ぬれについて学ぶことができて良かった。
- とても考えさせられました。平常時に考えることの大切さを知りました。細かな点にも気をくばって、もう一度図書館の安全を考えてみたいと思います。
- もしもの時の「はりがみ」を自分の図書館でもしていきたいです。写真での様々な災害写真に圧倒されました。

○平成28年度第2回

テーマ：「PODについて考える」

日 時：平成29年3月9日（木）14時00分～16時00分

場 所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 ラーニングコモンズ「アゴラ」

参加者：40名（大学図書館32名、公立図書館7名、高校図書館1名、一般10名）

講 演：「PODを活用した地域活性～オンデマンド出版による1冊からの本作り～」

朝日印刷工業株式会社 富沢 充芳 氏

ワークショップ：「PODを考える：図書館が出来ること」

研究会概要

◇講演

出版印刷において、POD技術が消費者に寄り添い、直結した流通チャネルと共に、一貫したサービスを提供することで、「地域の活性化」に貢献することが可能である。その1つに、入手が困難となった図書をもう一度消費者に提供する「復刻サービス」がある。復刻に際しては、著作権の課題をクリアする必要があり、再流通のハードルともなっているが、この課題に向き合いPOD技術を利用する事で、古い地域図書を大いに再活用することが出来る。地域に存在する古いコンテンツのみならず、表現活動が活発化することで生まれる新しいコンテンツにおいても、本づくりのスタンダードが身近なものになって頂けたら幸いである。

◇ワークショップ

私たち図書館職員は本を作る側ではなく、作られた本を提供する側であるが、将来、図書館がPOD出版の窓口になる、あるいは、著作権の専門家として出版の相談に乗る可能性はないのだろうか？絶版になった郷土資料のPODを図書館が働きかけてよいのでは？図書館の可能性を広げるために、図書館員もPODの知識を得て、これから出来ることを考える。



（講演の様子）

（ワークショップの様子）

参加者の意見等

一般公開とし、図書館関係者以外の一般市民にも参加を呼びかけて研究会を開催した。学生や一般市民の参加もあり、意見交換の機会としても好評であった。以下のような感想が寄せられ、有意義な研究会となった。

- 地域に密着した形での利用方法に様々な可能性を感じました。
- PODについて初めて知ることができた。一冊から作れるため、いろいろなことに活用できると思った。地域の人しか知らないようなものを若い世代の人に伝えるためにPODにすることができたらいいなと思った。
- すぐに活用アイディアはないが、このようなサービスを知れたのは有益でした。
- 今回PODのお話しを聞いて、非常に楽しかったです。図書館として利用できるかどうかは分かりませんが、図書館も利用者のためのサービス等に使用できたら良いと思います。
- PODをとおして、図書館から発信することが何かできないか考えるきっかけになりました。
- PODは図書館の関わりは小さいものではないかと思っていたが、本日の話を聞き、活用できるヒントのようないいものがつかめたように思います。
- 大変よかったです。まだはっきりとした図書館でのイメージはつかめませんが、今後活用できるのではないかと思います。
- 班別のワークショップは緊張したが、色々な職種の方から話が聞けて参考になった。

群馬県公共図書館協議会市町村図書館・公民館図書室運営研究部会研修

- 1 日 時 平成29年2月17日（金） 午前10時30分から
- 2 会 場 群馬県立図書館 ホール（3階）
- 3 参加者 28名
- 4 演 題 「未来の図書館、はじめませんか～図書館の可能性を求めて」
- 5 講 師 岡本 真 氏（アカデミック・リソース・ガイド株 代表）
野原 海明 氏（アカデミック・リソース・ガイド株）
- 6 日 程 【受付開始】 午前10時15分から
【午前の部：講演会】 午前10時30分から12時まで
【午後の部：講演会】 午後1時から2時30分まで
【午後の部：質疑応答・その他】 午後2時30分から3時まで

7 概要

（1）目的

県内図書館の職員の資質向上並びに市町村図書館（室）の情報交換、交流を目的として、研修を実施した。

（2）内容

【岡本 真氏】

これまでに関わった主な図書館プロジェクトのご紹介や、全国の足で回った1400施設年間10万キロの旅のご紹介などがあり、いろいろな事例のご紹介を熱心にご講演していただきました。

今の図書館の置かれている状況を踏まえ、図書館に求められていることなど具体的なご提案をいただき大変参考になった。

【野原 海明氏】

尾瀬高校卒業の野原氏は、ARGが行った合宿を通して「読む・学ぶ・借りる・知る・調べる」などのこれまでの図書館でできることから、更に機能を拡張させ融合させた新たな施設の提案があった。

まち歩を行ったワークショップなど豊富な事例紹介などもあり、また、語り口も非常に滑らかで聞きやすかった。

8 参加者の声（主なもの）

- ・野原さんの説明が直接語りかけてもらっている感じでとてもわかりやすかった。
- ・図書館がまちづくりの中心になれるよう、その中で働く者として何ができるか考えながら日々仕事をしていこうと思う。
- ・ひとつの図書館しか知らない司書として働いてきたが、今までに思いつかないことがたくさんあり頭が固まってしまっているのを実感した。とてもよい刺激を受けた。
- ・図書館の知識情報を活かすお話は、本当に今、私たちが正面から考えなければならないことだと感じた。指定管理でコストを下げ、人材を育てず貸本屋業に甘んじて自治体が優れた図書館を維持できない（しない）ことが、自治体の力不足なのだと考える民度が必要なのだと強く感じた。
- ・実際の支援を例にお話を聞いたことで、未来へつながる図書館づくりや現在の図書館体制の問題など、改めて考える貴重な時間をいただいた。
- ・閲覧席で勉強している学生にだけと言ったり、絵本を楽しんでいるこどもにうるさいと言ったり利用者のトラブルがたえない。そうした場合の対応の参考になるような研修を受講したい。

群馬県公共図書館協議会 地域資料・レファレンス研究部会研修

日 時：平成 29 年 2 月 28 日（金）午前 10 時～12 時

会 場：群馬県立図書館 3 階ホール

参 加 者：25 名

内 容：講義「震災の記憶を収集・保存する」

講 師 加藤孔敬氏（宮城県名取市立図書館）

概 要

宮城県東松島市図書館での震災に係る資料の収集と保存・活用の取り組みである「ITC 地域の絆保存プロジェクト『東日本大震災を語り継ぐ事業』」についてのお話しがあった。

忘れてほしくないという思い、記録されたものしか記憶されないという現状、協力者との出会いなど、さまざまなきっかけがありできた事業であるという。

収集・整理した震災資料は、新聞のスクラップが、約 1 万 2 千件、写真が約 2 万 7 千枚、出版物、パンフ、ポスター、学校だよりなど関連資料が約 2 千 2 百枚、体験談が 151 人分と膨大な資料である。

それらの資料の公開・活用として、体験談については、DVD を日本語版 7 千枚、英語版 1 千枚作成するほか、館内閲覧用タブレットやホームページで見ることができるということである。体験談はデータが重いので、YouTube を活用しているとのことである。また、まちなか震災アーカイブとして、市内に QR コードを掲示するほか、パンフレット作成、ワークショップの実施など、さまざまな取り組みをおこなっているとのことであった。

体験談の採集は、傾聴活動となり、被災者は話すことでストレス解消・心の整理になったようである。資料等は学習教材や調査研究に利活用できるほか、震災の伝承として、QR コードはその場所の被災状況をリアリティに知ることができ、後世にも確実に伝えられる効果があった。さらに職員の地域愛、資料伝承の芽生えなどの効果があったということであった。

地域資料の収集は、災害が起こってから資料を集めのでは手遅れである。たとえ民俗芸能が途絶えてしまっても、資料が残っていれば復活できるというお話しもあり、地域資料の重要性や、それらをどう集めていくか、地域の図書館の役割等について再認識することができた。さらに、アーカイブは確実性、保存性、伝達性、客觀性をもつ民主主義のツールであることなど、さまざまなことを考えさせられる研修会であった。

参加者の声（主なもの）

- ・震災の記憶を語りついでいく大切さを実感した。
- ・震災の中でこれだけの収集、保存をしてきたことに感動した。
- ・地域の資料を集めることの大切さを改めて実感した。
- ・記録を保存するだけでなく、作成することも大切だととの考えが理解できた。
- ・「アーカイブ」について、単なる記録だけないアーカイブが持つ意味を理解することができた。
- ・震災の記録収集の中で、無形文化財等についての記録、保持にまで図書館の役割があるということが学べた。
- ・郷土資料について、自分たちから集めたり、記録したりすることの必要性も感じた。
- ・自然災害が少ないからこそ、気付かれずに消滅する群馬の文化があるかもしれない。
- ・図書館のあり方について考えることができた。未来へ残す宝庫として、誰かがではなく、図書館とそこで働く私たち一人一人が自主的に動くことが大切だと思った。

群馬県公共図書館協議会児童・青少年サービス研究部会研修

日時 平成 29 年 2 月 28 日（火）午後 1 時～3 時

会場 群馬県立図書館ホール

参加者 33 名

内容 講義 「YA サービスの実践」

講師 川崎彩子氏（埼玉県飯能市立図書館）

概要

群馬県公共図書館協議会の各研究部会では、県内職員の資質向上並びに情報交換などを目的として研修を実施。本年度も、県外の児童・青少年サービス先進図書館の実践的事例として飯能市立図書館職員の川崎氏をお迎えし、事例を中心に同図書館での取り組みの紹介や YA サービスの捉え方をお話しいただき、参加者の満足度が高い研修となった。

講義内容

2013 年にリニューアルオープンした図書館で、担当職員が実践的に行ってきましたサービスを中心に紹介。YA サービスとは、実践以前に該当年代である 10 代の利用者に対する配慮の気持ちが必要であるとし、開館当初設置した部活本コーナーなど例に挙げ、時期を逃さず仕掛けることの重要性を説いた。近くの公立高校との交換展示から、POP 書きが図書委員活動のひとつになった事例も紹介。コーナー資料に仕事や貧困など時代を反映したものを置き、生活力を高める棚づくりをしている。それだけではなく定番のものや実用書（0～8 類）の割合を適正な量にするなど、担当者の選書の心がけも発表し実際に本を紹介。YA サービスとは特別なことではないので、色々試しつつできることからまずは実行すべきとまとめた。

参加者の声（主なもの）

YA サービスに対する考え方や選書など、具体的で大変参考になった。（同様意見多数）

実践的でわかりやすく、自館でも試してみたい。

自館の棚の構成を考えさせられた。

タイミングを意識することの大切さを学んだ。

YA 世代の利用を高めるため、意識して取り組む講師の姿勢に共感した。

研修について

例年開催時期が年度末に近く各館忙しいところ、多くの職員が参加して意義ある研修を行えた。部会のチームワークにより円滑な運営ができたが、次年度は早い時期に 3 部会のバランスを取り開催できるよう努めたい。

群馬県大学図書館協議会 平成 28 年度活動報告

I. 事業

1. 「会員名簿 2016」の配布

「会員名簿 2016」を改訂し配布した。

※加盟館 21 大学（28 館）会員数 127 名。

2. 会報「からっかぜ通信」第 36 号、37 号の発行

第 36 号を 9 月に発行し、協議会 HP に掲載した。

※第 37 号は、3 月に発行する。

3. 大学図書研究会の開催

第 1 回 平成 28 年 9 月 6 日 13 時 20 分～16 時 00 分（会場：高崎経済大学図書館）

「災害に学ぶ—図書館と災害・防災」をテーマに開催した。研究会は、日本図書館協会資料保存委員長の眞野節雄氏による講演および草津町立温泉図書館司書の中沢孝之氏によるワークショップを実施し、43 名の参加を得た。

第 2 回 平成 29 年 3 月 9 日 14 時 00 分～16 時 00 （会場：群馬大学中央図書館）

「POD を活用した地域活性～オンデマンドによる 1 冊からの本作り～」をテーマに朝日印刷工業（株）の富沢充芳氏の講演およびワークショップ「POD で図書館が出来ること」を開催し、40 名の参加を得た。

4. 第 14 回群馬県図書館大会の共催

日時：平成 28 年 11 月 24 日 会場：県立図書館

分科会検討委員として加盟館員 3 名が参加した。

5. 「相互協力便覧 2017」の配布

3 月に本協議会のホームページに掲載する。

II. 会 議

1. 「会報」編集委員会 日時：平成 28 年 7 月 13 日 14:00～16:50 会場：育英短期大学図書館

第 36 号、第 37 号の編集発行について、委員会を開催し、記事内容等の検討を行った。また、表紙のデザインについては、前年度に引き続き加盟館名簿順に紹介の写真をもとに委員会で作成した（第 36 号：高崎商科大学、第 37 号：東京福祉大学）。

2. 幹事館会議

第 1 回 日時：平成 28 年 5 月 23 日 10:30～11:40 会場：群馬大学中央図書館

本協議会の本年度の活動内容について、大学図書館研究会の開催を含め検討した。

第 2 回 日時：平成 29 年 2 月 28 日 14:00～15:40 会場：同上

平成 28 年度の決算報告及び平成 29 年度の予算案及び事業計画について審議した。

3. 運営委員会 日時：平成 28 年 6 月 23 日 15:00～16:30 会場：群馬大学中央図書館

本協議会の本年度の実施事業について検討するとともに、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

4. 総会 日時：平成 29 年 3 月 9 日 13:00～13:40 会場：群馬大学中央図書館

平成 28 年度の決算報告及び平成 29 年度の予算案及び事業計画について審議するとともに、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

群馬県高等学校教育研究会図書館部会

1 総会及び講演会 平成28年5月2日（月） 群馬県総合教育センター

(1) 平成27年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告

平成28年度役員及び幹事紹介

平成28・29年度司書研修委員紹介、群馬県高等学校図書館運営マニュアル改訂委員紹介

平成28年度事業計画案、予算案審議

(2) 平成27年度司書研修会全体会・分散会報告

(3) 講演会

講師：高橋 恵美子 氏（公益社団法人 日本図書館協会学校図書館部会部会長）

演題：「これからの中学校図書館」

(4) 地区研修会

2 司書研修会

〈第1回〉 平成28年7月8日（金） 群馬県総合教育センター

分科会研修（9分科会に分かれて研修を行う）

①群馬県高等学校図書館の歴史

②CASA110番

③「読書週間」活用法

④授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～

⑤著作権Q&A

⑥利用者教育

⑦分類

⑧群馬県高等学校図書館チェックリスト

⑨初心者研修

〈第2回〉 平成28年10月20日（木） 群馬県総合教育センター

分科会発表（9分科会より長期研修の成果を報告）

①群馬県高等学校図書館の歴史

②CASA110番

③「読書週間」活用法

④授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～

⑤著作権Q&A

⑥利用者教育

⑦分類

⑧群馬県高等学校図書館チェックリスト

⑨初心者研修

3 冬季研究大会並びに講演会 平成29年2月17日（金） 共愛学園前橋国際大学

(1) 読書感想文、読書感想画表彰式及び講評

(2) 司書研修会長期研修報告

(3) 平成29年度関東地区学校図書館研究大会（群馬大会）模擬発表（3名）

(4) 講演会

講師：埼玉県立入間向陽高等学校 司書 宮崎 健太郎 氏

演題：「授業で使える図書館～図書館ができる授業支援～」

(5) 研究協議分散会

・「合同読書会 桐生・みどり地区における実践」

発表者：武島 美智子 氏（群馬県立桐生高等学校 教諭）

林 保奈美 氏（群馬県立桐生高等学校 学校司書）

神山 卓也 氏（群馬県立桐生工業高等学校 学校司書）

・「ビブリオバトル導入について～総合学習・図書委員会における取組と今後の課題～」

発表者：清水 敦子 氏（東京農業大学第二高等学校 教諭）

梯 玲子 氏（東京農業大学第二高等学校 学校司書）

・「とある図書館の“日常”について」

発表者：金山 由紀 氏（群馬県立伊勢崎商業高等学校 学校司書）

平成28年度群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

1 総会並びに幹事会

平成28年5月31日（火） 前橋市上川淵公民館

2 研究員会

【第1回】 平成28年6月24日（金） 前橋市上川淵公民館

○テーマの決定：「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

～学校図書館の原点をふまえ、新たな実践への挑戦を～

※平成29年度に開催される関東地区学校図書館研究大会群馬大会の大会主題

【第2回】 平成29年1月13日（金） 前橋市上川淵公民館

○研究実践集録の作成並びに情報交換

3 第40回全国学校図書館研究大会（神戸大会）

平成28年8月8日（月）～10日（水） 会場：神戸国際展示場 神戸学院大学

・大会主題「アクティブ・ラーニングを支える学校図書館のあり方」

4 第62回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会

【第1回】 平成28年10月21日（金） 前橋市上川淵公民館

【第2回】 平成28年11月9日（木） 前橋市上川淵公民館

※小学校（低・中・高）、中学校の各部より各2点、計8点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品

※〈小学校高学年の部 自由読書〉で、前橋市立敷島小学校 富澤 霙さんが、「全国学校図書館協議会長賞」を受賞

5 第28回読書感想画中央コンクール群馬県審査会

平成29年1月17日（火） 前橋市城南公民館

※小学校（低・高）、中学校の各部より各4点、計12点を県代表作品として、「中央コンクール」へ出品

6 部会誌「学校図書館57号」

平成29年3月9日（木）発行

※本年度より群馬県小学校中学校教育研究会 web ページに掲載

7 学校司書部会の主な事業

平成28年7月27日（木） 総会並びに研修会 上野村立上野小学校

・研修会講師 BACH代表 ブックディレクター 幅 允孝 様

平成29年1月31日（火） 第2回研修会 高崎市市民活動センター ソシアス

・研修会講師 サイエンスコミュニケーター 出井 正道 様

平成28度 読書感想画最優秀作品

小学校低学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】

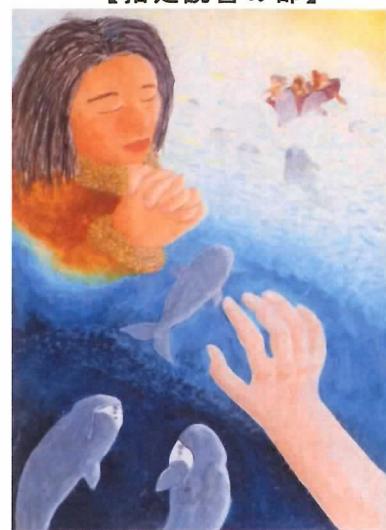


小学校高学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】



中学校

【自由読書の部】



【指定読書の部】



平成28年度
群馬県図書館協会会報
NO. 11 (平29. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1
群馬県立図書館内

TEL 027(231)3336
FAX 027(235)4196